

東京海洋大学の機能強化プラン

1 はじめに

2003年（平成15年）10月、東京商船大学と東京水産大学が統合し、東京海洋大学が発足いたしました。歴史と伝統を誇る両大学の教育研究を継承するとともに、海洋に関わる新たな領域に挑戦し、我が国が海洋立国として発展するための一翼を担うとともに、国際的に卓越した教育研究拠点を形成し、世界をリードする高等教育機関としての役割を果たすことを目指しています。

しかしながら、近年、我が国の経済の停滞と財政構造の悪化により、収入の多くを国からの運営費交付金に依存する国立大学の運営・経営は非常に厳しい状況におかれています。一方では、経済及び社会の再生等のために多くの課題を抱える国は、知の拠点である国立大学に、グローバル社会に対応できる優れた人材の育成と世界をリードする科学技術の創出を強く求めています。

東京海洋大学が、この厳しい現実を乗り越え、さらに発展し、国民の皆様の付託に応えていくためには、本学のもつ特徴を活かし、機能を強化することが必要です。具体的には、教育においては、高度専門職業人の養成、特に急速に進む国際化時代に、柔軟に対応できる人材の育成を最重要課題のひとつとして掲げ、研究においては、国際的に優れた研究水準にある、海洋の環境・資源・エネルギーを核とする分野で、更なる飛躍を目指し、知の国際競争に勝ち抜く努力をしております。また本学は、伝統的に実学重視の教育研究を展開してきましたが、今後も、産官学の連携を重視し、産業や地域社会に貢献するための連携強化に積極的に取り組んでまいります。

また、この度の東日本大震災では、本学と縁^{ゆかり}の深い東北地方太平洋沿岸の多くの市町村が甚大な被害を受けました。海洋に関する総合大学としての役割を認識し、大学の知財と人材を積極的に活用して、関係する大学や機関等と連携を図りながら、東北復興の支援を続けてまいります。

この機能強化プランでは、その実現のために、今後3年間に行うべきことをまとめました。本学の特徴や機能を明確化し、強みをさらに伸ばして、国内外の教育研究機関との連携を推進しながら、役割を果たしていきます。

平成24年3月23日

2 東京海洋大学の理念・目標等

【大学の理念】

人類社会の持続的発展に資するため、海洋を巡る学問及び科学技術に係わる基礎的・応用的教育研究を行う。

【大学の人材養成と目標】

我が国が海洋立国として発展し、国際貢献の一翼を担っていくためには、国内唯一の海洋系大学である東京海洋大学が、「海を知り、守り、利用する」ための教育研究の中心拠点となって、その使命を果たす必要がある。このような基本的観点に立ち、本学は、研究者を含む高度専門職業人養成を核として、海洋に関する総合的教育研究を行い、次の能力・素養を有する人材を養成する。

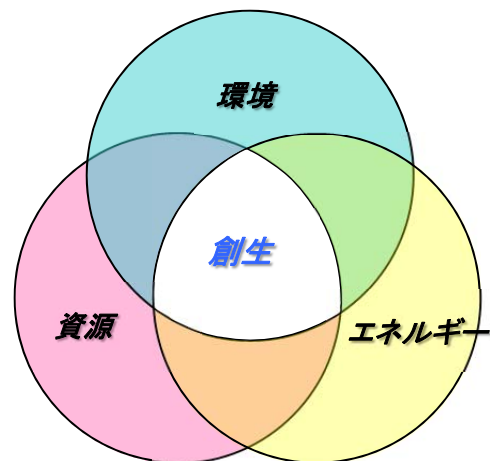
- 一 海洋に対する科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方策を提示し、実践する能力
- 二 論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感をもって行動する能力
- 三 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力
- 四 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探求、問題解決能力
- 五 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養

【大学像】

海洋分野において国際的に活躍する産官学のリーダーを輩出する世界最高水準の卓越した大学

【大学の研究領域】

本学は、環境、資源、エネルギーを中心に、これら3領域の複合部分、周辺領域を含めた幅広い研究に取り組む。



※この図は研究領域を示すもので、組織を示すものではない。

3 東京海洋大学が強化すべき機能等

我が国が海洋立国として発展し、国際貢献の一翼を担っていくために、国内唯一の海洋系大学として、「海を知り、守り、利用する」ための教育研究の中心拠点となつて、環境、資源、エネルギーを中心に、これら3領域の複合部分と周辺領域を含めた幅広い研究に取り組み、**海洋分野において国際的に活躍する産官学のリーダーを輩出する世界最高水準の卓越した大学を目指す。**

(1) 卓越した教育の実現と人材養成【教育】

学部及び大学院の一貫した教育体制を構築し、教育の質の向上に取り組むとともに、教育内容の評価システムの高度化を図る。また、実学を重視した実践力を養う教育を行う本学の特徴を活かすとともに、英語教育・国際理解教育をはじめ教養基礎教育や専門教育の充実により、研究者を含む国際的に活躍する高度専門職業人を養成する。

(2) 学術研究の強力な推進【研究】

本学が海洋に特化した大学であるという特色を生かして、社会のニーズや国の科学技術基本計画を踏まえつつ、環境、資源、エネルギーとそれらの周辺領域を核とした海洋分野におけるグローバルな課題に挑戦し、国内外を問わず共同研究を推進するなど持続的発展が可能な社会の創造に貢献する。また、基礎的研究や学際的研究、文理融合型研究等が果たす役割を認識し、幅広い分野を包括した研究の推進とその高度化に取り組む。

(3) 海洋に関わる社会への貢献【社会貢献】

本学の持つ知的資源を、産官学の密接な連携においてより一層有効に活用する方策を検討する。特に、東日本大震災被災地の復興に向けた本学の知を活用した支援に重点的に取り組む。また、国民の海洋に関する理解と関心を深めることができるよう産業界や地域社会のニーズに応える事業を継続しつつ、新たな貢献への基盤づくりに努める。

(4) 国際交流と国際貢献活動の推進【国際交流・貢献】

海洋とその周辺領域の分野における世界最高水準の卓越した教育研究拠点の形成を目指す。このため、まずはアジア地域における同分野の中核的研究拠点を形成することとし、組織的な国際的教育研究ネットワークを構築するとともに、国際貢献活動を推進する。また、本学における国際化推進の基盤となる環境整備及び教職員の国際化に努める。

(5) 大学運営の効率化・高度化の推進等【管理運営】

学長がリーダーシップを発揮して上記4つの機能を強力に推進するため、学長の下に置かれた経営企画室の効果的な運営と意思決定機能の短縮化を図るとともに、こうした機能を活用した組織及び業務運営等の逐次見直しに努める。特に、平成24年4月からの大学院改組（重点化）を実効性あるものとするほか、事務の効率化・合理化を推進する。

4 機能強化のための方策 –アクションプラン2012～2014–

(1) 卓越した教育の実現と人材育成【教育】

1) 卓越した教育の実現

プラン1 学部と大学院の一貫した教育体制の構築

- ・ 学部及び大学院のそれぞれにおいて、入学者の選抜方針（アドミッションポリシー）、教育方針（カリキュラムポリシー）、卒業生・修了生への学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づき、一貫した教育体制を構築し、教育の質の向上に努める。

プラン2 学部・大学院教育の質の保証と向上の取組

- ・ 教育課程の編成の趣旨に沿ったシラバスの作成体制の整備と、厳格な成績管理を進める。
- ・ 教育目的に応じた、より適切な成績評価システムを構築し、個々の学生の修学支援の充実に努める。
- ・ 留学生や社会人学生等の多様な学生の入学に合わせて、シラバスや教育・研究支援制度の充実を行うなど、きめ細やかな教育指導体制を構築する。

プラン3 教育の質に関する評価システムの構築

- ・ 教員の資質向上（ファカルティ・デベロップメント）のために、研修システムの体制を整備し、学生や第三者等による授業評価制度の強化と充実を図る。

プラン4 他大学等との連携による教育の推進

- ・ 練習船、水圏科学フィールド教育研究センター等を共同利用の拠点とし、また学生や教員の交流等により他大学等と連携した教育を推進する。

2) 卓越した人材の育成

プラン5 教養基礎教育の充実

- ・ 卓越した人材に不可欠な幅広く豊かな人間性を醸成するために、教養基礎教育科目の充実を図る。
- ・ 本学の特徴である海洋分野について、新入生のための「海の科学、船の科学、海と生命、海と文化」等をはじめ、海洋に対する必要な基礎知識を身に付けるカリキュラムを提供する。

プラン6 英語教育・国際理解教育の充実

- ・ 研究者を含む高度専門職業人を養成するため、英語によるコミュニケーション能力の強化に努める。
- ・ 学部において、英語力の強化のためのカリキュラムを導入し、国際化に対応した人材の育成に努める。
- ・ 大学院において、英語による授業の試行を更に進めるとともに、海外の学生交流協定締結大学との連携を含め、語学研修や短期海外研修等により国際理解のための教育プログラムの導入を図る。

プラン7 海上技術者教育の充実

- ・ 海洋立国である我が国にとって不可欠な高度な技術と能力を備え、科学や工学の知識に加えて、国際性及び実践指導力を有し、経営問題に対処できる人材としての海上技術者を育成する。

(2) 学術研究の強力な推進【研究】

1) 研究の高度化及び活性化の推進

プラン1 研究の高度化及び活性化のための組織的取組

- ・ 海洋に関する世界水準の先端的研究及び基盤的研究を行うため、世界をリードする重点研究及び水工連携をはじめとした学際型の研究を組織的に推進する。
- ・ 研究に対するインセンティブ付与のため、選択と集中による資金の重点配分を行う等の諸方策を効果的に制度化・実施する。

プラン2 国内外の関係機関との連携の強化による研究の推進

- ・ 包括連携機関や海外の学術交流協定締結機関との連携強化を図る。

2) 若手研究者等の育成及び支援

プラン3 若手研究者・女性研究者の育成及び支援の強化

- ・ 基本方針の策定とともにキャリアパスの多様化を含めた指導の充実により、博士研究員の育成を図る。
- ・ 若手研究者の研究支援のための制度・環境整備を推進する。
- ・ 男女共同参画事業における女性研究者支援の取組を推進する。
- ・ 若手教員の海外長期研修の支援の充実を図る。

3) 研究環境の整備

プラン4 研究施設・設備の充実

- ・ 学内の研究施設・設備の共同利用を推進する。

(3) 海洋に関わる社会への貢献【社会貢献】

1) 東日本大震災被災地の復興支援等

プラン1 本学の知を活用した、三陸沿岸地域を中心とする東日本大震災被災地の海洋・水産関連産業の復興支援等

- ・ 本学・岩手大学・北里大学3大学による連携推進基本合意書に基づく事業を推進する。
- ・ 被災地に「東京海洋大学三陸サテライト」を設置し、積極的な運用を図る。
- ・ 過疎高齢化に適応した新たな沿岸地域モデルの構築に関する研究及び東北マリンサイエンス拠点形成事業を推進する。
- ・ 放射性物質による海洋環境への影響調査を継続的に実施する。

2) 地域貢献

プラン2 地域及び全国水産・海事系都市との連携強化と知的貢献

- ・ 国民の海洋に関する理解と関心を深めることができるよう、公開講座やフォーラムを積極的に開催するなど、研究のアウトリーチ活動を強化するとともに、地域貢献活動を推進する。
- ・ 江東区、港区等の地元自治体・企業を対象とした連携活動の強化（附属図書館の利用、明治丸海事ミュージアムの公開、共同研究等）を図る。
- ・ 全国水産・海事系都市との連携を図り、支援活動強化に努める。

(4) 国際交流と国際貢献活動の推進【国際交流・貢献】

1) 大学間交流等の国際的連携の推進

プラン1 組織的な国際的教育研究ネットワークの構築と国際貢献活動の充実

- ・ 日中韓の大学間交流を中心とした教育研究ネットワーク作りを進める。
- ・ ASEAN諸国を中心とした国際貢献活動の充実を図る。

2) 学生・研究者の交流の推進

プラン2 日本人学生の派遣、留学生・外国人研究者の受入れ等のための環境整備

- ・ 日本人学生の派遣数及び留学生の受入れ数の増加を図るため、アジア諸国の大学等との交流を一層充実するとともに、欧米諸国の大学等との連携強化を図る。
- ・ 英語による授業の充実及び留学生に対する日本語教育の強化を図るほか、留学生等への環境整備を推進する。
- ・ コーディネーターの確保や教職員の海外派遣等、国際化を推進するための方策の充実を図る。
- ・ 31か国・86機関との国際交流協定締結の実績に基づき国際交流を推進するとともに、元留学生を本学へ招き、交流を深化させる。

(5) 大学運営の効率化・高度化の推進等【管理運営】

1) 組織運営の効率化・高度化

プラン1 組織運営の効率化

- ・ 経営企画室の活用等による意思決定機能の強化・効率化を図る。
- ・ 事務処理を効率化・合理化する。
- ・ 外部委託や人材派遣の受入れを推進し、より一層スリムで機動的な事務組織を実現する。
- ・ 他大学との連携による業務の共同実施を推進する。

プラン2 ガバナンスの強化

- ・ 不正行為の防止、リスク管理体制の整備及び情報セキュリティの質の向上等のガバナンスの強化に取り組む。

プラン3 厳格な自己評価の実施

- ・ 教育・研究・社会貢献・管理運営に関する全学的な組織活動の評価、及び教職員の個人活動評価を継続的に改善する。

- ・ 経営協議会学外委員の意見を大学経営に活用するとともに、J A B E EやI S O認証評価等外部機関の評価を受ける。

プラン4 大学情報の一元化、積極的開示、及びステークホルダーに対する説明責任

- ・ 大学における教育、研究、社会貢献活動等について、情報の一元管理を進めるとともに、積極的かつ戦略的な広報活動を行う。
- ・ 学生、保護者等に対して積極的に大学情報を提供するとともに、海洋・水産・海事関連機関との教育研究ネットワークを通じた活動により、地域及び産業界等のステークホルダーの大学機能の理解促進を図る。

2) 人材育成

プラン5 多様な人材の確保及び人材養成

- ・ 男女共同参画を積極的に推進し、啓発活動や必要な環境整備を行う。
- ・ 事務職員の人材育成を目的として、他機関との人事交流、合同研修等を行う。

3) 財務基盤

プラン6 財務基盤の強化

- ・ 省エネや業務の合理化等を通じた経費削減に取り組むとともに、既存施設・設備の計画的整備等により一層の有効活用を推進し、財務体質の強化・改善を図る。
- ・ 競争的資金等の獲得や大学基金の体制整備の強化に取り組み、学生の修学支援や教育研究活動の活性化を積極的に推進する。